

群馬県総合教育センター幼児教育センター ぐんま幼児教育センターだより

第42号 令和4年3月

「ぐんま幼児教育センターだより42号」をお届けします。

1ページ：研修講座実施報告

2ページ：夕やけ保育研修会実施報告

3ページ：令和4年度の研修について

4ページ：調査・研究事業の中間報告

今年度の研修を振り返って

令和3年度の研修が終了しました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、集合研修をオンライン研修に変更するなどの対応をして、中止にせず全研修を行うことができました。オンライン研修については、受講される方や所属園等、また市町村教育委員会の皆様にも、大変お世話になりました。急な変更にもご対応いただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和3年度 研修講座 実施報告

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数
1010	幼稚園等新規採用教員研修	10日	集合研修：1日 オンライン研修：9日
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	オンライン研修：2日
1410	幼稚園等5年経験者研修	3日	オンライン研修：3日
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	8日	集合研修：2日 オンライン研修：6日
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	オンライン研修：2日
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日
3290	幼児教育研修講座	1日	集合研修：1日

令和3年度の受講者の感想等は、前号に掲載いたしました。地域や対象者によって、「オンラインがやりやすい」「顔を合わせた集合研修がよい」と、意見は様々でした。受講者の皆様のご意見も参考にして、令和4年度の研修講座を企画中です。詳しくは、3ページをご覧ください。

連絡先

群馬県総合教育センター 幼児教育センター

TEL：0270-26-9203 FAX：0270-26-9222

E-mail：youji@edu-g.gsn.ed.jp

令和3年度 夕やけ保育研修会 実施報告

今年度は、オンラインで8回の研修を行いました。「オンラインだと今まで行けなかったような研修にも参加しやすいので、また夕やけ保育研修会に参加したい」というご意見も複数いただきました。多くの皆様にご参加いただき、感謝申し上げます。

<参加者の声>

特別講演会

12/27 (月) 田澤 里喜 氏
★遊びの重要性と保育者の
関わり

- ・「問と答の間を広くする」ことを大切にしたいと思った。
- ・「子供が本当にしたいことを理解しようとする」ということが自分ではできているか、と保育を振り返るよい時間になった。
- ・具体的な事例や写真も多く提示され、大変分かりやすかった。紹介された本も読んでみたいと思った。

子育ての支援

10/29 (金) 横山由美子 氏
★コロナ禍における子育て支援
の現状と課題

- ・子育て支援について、取り組み内容、配慮事項、進め方等がよく分かった。コロナ禍だから支援を中止するのではなく、できることを考えることの大切さを改めて感じた。
- ・これからは、保護者からの相談を待つだけでなく、こちら側から気に掛けて、声を掛けていきたいと思った。

発達の理解

8/23 (月) 石川 京子 氏
★気になる幼児の理解と支援

- ・障がいをもつ子供の特性が5つのタイプにカテゴライズされ、とても分かりやすく、幼児への対応が明確になり、明日からの保育ににすぐに生かそうという前向きな気持ちになることができた。
- ・「特性を変えようとするのではなく、その違いは尊重されるべき」という言葉が印象に残った。

9/3 (金) 大島みずき 氏
★乳幼児の発達の理解と保育

- ・発達とは、人間が生まれてから死に至るまでの「変化」を指すことを知り、一見マイナスに見える子供の姿も、成長であり発達であると、プラス思考で捉えることができると思った。
- ・愛着関係がしっかりと構築されることが、遊びや発達の基礎になるので、子供たちと信頼関係を地道に築いていきたい。

幼児期の教育

7/2 (金) 渡邊 俊 氏
★園としての保育力を高める
～語り合い、学び合う日常～

- ・「同僚性や協働性を武器に」「みんなが関わる園内研修の工夫」の話は、職員の勤務体制が変わる中、職員同士の情報の共有や研修の方法についてとても参考になった。
- ・保育力の向上を図るため、教師同士が互いの保育に関心を持ち、常的な対話を通して、より一層同僚性を高めていきたい。

10/13 (水) 田子 文子 氏
★子供が自ら動き出し、遊び
の物語を創る保育

- ・子供たちが何をイメージし、何を面白がっているのかをキャッチすることが大切だと感じた。そして、子供たちと一緒に思いきり遊び、子供たちと一緒に悩むことが大切だということ学んだ。
- ・年齢で遊びを決めるのではなく、発達に合った経験や体験の中から子供自身が発見できるような環境の構成を心がけていきたい。

11/9 (火) 高梨 珪子 氏
★幼児期の教育について
～出会った子供たちから
教えられてきたこと～

- ・高梨先生から魂のこもったメッセージを頂いたようで、胸が熱くなった。「生きている子供たちの生きている営み」の中に自分は存在していて、その子供たちと、毎日、関わりながら生活を共にしていることについて、改めて考えるきっかけをいただいた。
- ・子供の声に何気なく返している自分の言葉の重要性を強く感じた。

11/30 (火) 塩崎 政江 氏
★コロナ禍だからこそ見えてきた
教育の本質的な意味について

- ・研修後、園の子供たちが小学生になったときに課題となりそうな姿をアンケート結果と照らし合わせ、今後の指導に生かすべく職員間で話し合った。また、より具体的な取組となるよう、就学先との情報交換についても積極的に働きかけし、より子供の実態に沿って指導していけるようにしていきたいと思う。

令和4年度の研修について

<研修講座>

令和4年度は、現在のところ、以下のような予定です。（今後、変更する可能性もあります。）詳しくは、群馬県総合教育センターWebページに3月末にアップ予定の「令和4年度研修講座案内」をご覧ください。

講座コード	講座名	総日数	研修形態・日数	備考
1010	幼稚園等新規採用教員研修	10日	集合研修：3日 オンライン研修：7日	
1210	幼稚園等3年目経験者研修	2日	オンライン研修：2日	
1410	幼稚園等5年経験者研修	3日	オンライン研修：3日	
1610	幼稚園等中堅教諭資質向上研修	8日	集合研修：2日 オンライン研修：6日	
2010	新任幼稚園等園長研修	2日	集合研修：2日	2日目は午後のみ
2050	新任幼稚園等副園長・教頭研修	1日	集合研修：1日	
3290	幼児教育研修講座	1日	オンライン研修：1日	午後のみ

「幼児教育研修講座」は、以下のテーマで行う予定です。

テーマ：幼児期の教育の“しくみ”について考える（仮）

～ねらい・内容・環境の構成の関係性に視点を当てて～

<夕やけ保育研修会>

令和4年度も、オンラインでの研修を企画しております。詳しくは、次号で、お知らせいたします。お楽しみに！

令和4年度の夕やけ保育研修会は、
講師の先生をお迎えしての講義のほか、
参加者の皆さんが、気軽に語り合うことができる
ような会も企画中です！

コロナ禍で、近隣の園であっても、顔を合わせて話す
機会が少なくなっています。

保育に関して、他園の様子や情報を知りたい、悩みを
聞いてほしい、という方は是非ご参加を！！



「保育者の指導力向上に向けた支援」

幼児期の教育を取り巻く喫緊の課題は、大きな視点で見ると「保育の質の向上」と「働き方改革」の2つあると言えるのではないのでしょうか。

「保育の質の向上」については、教育要領等の改訂や幼児教育・保育の無償化、そして令和5年度の創設に向けて動きが出てきた「こども家庭庁」など、これまで以上に幼児期の教育に注目が集まり、質の高い教育・保育の提供が望まれてきている背景があります。また、幼児期の教育の充実が、その後の長い人生に強く影響を与えていることが、国際的な比較・分析、種々の研究から明らかになっています。東京大学発達保育実践政策学センター（CEDEP）は「OECD幼児教育・保育白書第6部」を基に、「国際比較の知見を通じて日本の幼児教育・保育の在り方を考える公開シンポジウム（2021年9月10日）」を開催しました。その中でシュライヒャーOECD教育・スキル局長は、カリキュラムや保育従事者の質を念頭に置き、「子供たちが自ら考え、自分たちで他者と共に生き、この地球という惑星と共に生きることが出来る大人に成長できるよう、幼児教育・保育は社会の変化や将来予測される困難に敏感でなければならない（CEDEP Webページより）」と述べています。これは保育の質の向上が、子供のレジリエンスを育み、生涯の幸福感を支えていくということを示唆していると捉えられます。

上述のように「保育の質の向上」を図ることが重要とする一方、保育現場では「働き方改革」の実現が、保育者不足や離職、心理的・身体的健康問題等を乗り越える手段であるとの認識も高まっています。

このようなニーズに資する調査研究の必要性を感じ、幼児教育センターでは令和3年度から「保育者の指導力向上に向けた支援」をテーマに掲げ、研究活動を行っています。

<研究の目的>

環境に関わり遊ぶことを通して、幼児に「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を育てていくための幼児教育施設における指導の改善方法を提案し、保育者を支援する。

<研究の内容>

- 幼児期の教育はどのような“しくみ”で構成されているのか
 - 「ねらい」・「内容」・「環境の構成」の関係性と具体的な記述方法
 - 指導計画と保育の実際
- 幼児理解を深めるために、ICTをどのように活用するのか
 - 記録の効率的な記述
 - ◆ ドキュメンテーション・音声入力
 - ・ 保育記録
 - ・ エピソード記述→保育カンファレンス
 - ・ 指導計画（週案等）の「幼児の姿」
 - 伊勢崎市立第一幼稚園との共同研究
 - ・ 保護者支援
 - 効果的な分析・活用
 - ◆ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を窓口にして分析
- 「遊ぶ」「生活する」ことは、幼児にとってどのような意味があるのか
 - 行事との関係
 - 言葉・文字・運動・音楽・描画等との関係
- 環境としての保育者の存在は、幼児の発達にどのような影響を与えるのか
 - 潜在的カリキュラム
 - 同僚性

※赤：既に、研修講座や保育アドバイザー派遣による伊勢崎市立第一幼稚園との共同研究で、動き出している内容

※青：次年度以降に開始する研究内容